（公財）中央果実協会
No.86

ペルー　生食用ブドウの記録的なシーズン

The Grape Reporter　2025年6月4日

ペルーの生食用ブドウの記録的なシーズン：業界は重要な節目を迎える

ペルーが20億ドル以上の生食用ブドウを輸出した2024-25年度シーズンは、歴史に刻まれるものとなった。これは業界にとって重要な節目であり、現在と未来を分析するのに丁度よい機会である。

この文脈で、フラクチュアンテ社はコルテバ社と共同で、ペルーのブドウ出荷シーズンに関するウェビナーを開催する。このイベントは、6月6日（金）18:00（ペルー時間）に開催される。

Freshfruitportal.com（本サイトの関連サイト）は、フラクチュアンテ社のCEOであるダビド・サンドバル氏に話を伺った。同氏は生食用ブドウがペルーで最も重要な作物の1つであることを忘れてはならないと強調し、「昨年のブドウの輸出量は、ブルーベリーに次いで第2位であった」と指摘した。（以下「　」は同氏の話）

同氏は、過去数年間、生食用ブドウは一貫してペルーの農産物輸出の上位に位置してきたと付け加えた。直近のシーズンには、ブルーベリーの急成長と、北部地域が被った気候変動の影響で2023年と2024年初頭のブドウの生育が妨げられたことにより、2位となった。

ペルーの生食用ブドウ：多様で適応力のある産業

ペルーの生食用ブドウ産業の重要な側面の1つは、その品種の多様性である。サンドバル氏は、ペルーは現在56以上のブドウ品種を誇っていると指摘した。「我々はもはや伝統的な品種だけに頼っているわけではない。現在、ブドウの75％が特許を取得したプレミアム品種であり、種なし品種に重点を置いている。」

同氏は、ペルーの主要な強みである市場ニーズへの迅速な適応力を強調した。「そのおかげで、我々はそれらの要求に耳を傾け、理解し、製品を迅速に需要に合わせることができる。」

今回のウェビナーは、このセクターの進歩を紹介することを目的としている。

「今シーズンはブドウ生産が回復しており、純増している。北部地域が異常な状況に直面した昨シーズンとは対照的である。」

サンドバル氏は、新興市場をはじめとして、生食用ブドウの可能性は大きいと考えている。「我々はアジア諸国をターゲットにしており、チャンカイ港の整備もその一因である。」

全国レベルの話として同氏は、「我々は主要な果実生産者になるだけでなく、南太平洋の主要な物流ハブになることを目指している。これは、ペルーのより広範な輸出の可能性を支えるものである」と述べた。

業界の課題

主な課題についてサンドバル氏は明快であった。「間違いなく、最大の課題はブルーベリーやアボカドなどの他の作物との競合である。これにより、水資源と貨物の物流が圧迫されている。」

主な生食用ブドウ産地

サンドバル氏は、南のイカ県と北のピウラ県という2つの主要な輸出の原動力を特定した。

イカ県は今シーズンの総輸出量の49％を占め、これは8.2kg箱で4,200万箱に相当し、前シーズンに比べて18％増加した。

2番目に重要な産地であるピウラ県は、総輸出量の36％、すなわち3千万箱の貢献で、これは回復と成長を合わせて合計50％の増加を反映している。

悪天候とそれに伴う生産量減少の影響を最も受けたのは、ピウラ、ランバイエケ、ラリベルタの各県であった。

価格動向

価格について、サンドバル氏は次のように指摘した。「今回は供給が安定している。生産量の水準は回復し

たが、価格は若干下がっている。総合的な価格は、シーズン全体で約4%低下した。」

他の作物と比較して、ブドウは価格の低下が最も小さいものの1つであり、シーズン全体を通じた平均価格は2.97ドル/kgであった。

サンドバル氏は、業界は高級果実にお金を払う意思のある国々、特にアジアと中東、に市場を多様化すべきだと提案した。

「我々は既に期待に応える適切な品種を手に入れているが、プレミアム価格を支払う意思のある市場にはまだ到達していない。」

輸出市場

米国は今シーズン、輸出の52%を占め、最大の買い手であった。

サンドバル氏は、物流への投資の必要性を強調した。「北部と南部の地域にはブドウ生産に適した土地があるが、物流の問題、特に港への迅速なアクセスの欠如が、新規の生産者にとって大きな障害となっている。」

ペルーは現在、日本への輸出シーズンを2年連続で完了したところであり、サンドバル氏はこの市場を「興味深い市場であり、ペルー産ブドウの需要が高まっている」と描写する。同氏は、日本市場の開放には15～20年かかっており、業界は現在そこでの拡大に取り組んでいると指摘した。

同氏は、ペルー産ブドウの振興を助けるために、日本政府はペルーへの代表団の派遣さえ行った(原文のまま)と強調した。

これまでの反応は肯定的であり、サンドバル氏は「結果はすぐには出ないが、将来の成長のための戦略的な基盤が築かれている。来シーズンの日本への輸出がさらに増えることを期待している」と述べた。

ウェビナーと戦略的展望

サンドバル氏は、ウェビナーの基調講演者の1人がカンポソル社元CEOのホセ・アントニオ・バサン氏であり、ペルー産ブドウの輸出環境における米国の役割等、戦略的なビジネスの展望について述べる予定であると紹介した。

このイベントでは、高級なブドウ品種が本当に投資に見合うのか、それとも従来品種が依然として競争上の優位性を提供するのかについても検討する。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

(関連記事)ペルー　輸出用に認定された生食用ブドウは2万3,320ヘクタール

agraria.pe　2025年6月4日

(Agraria.pe)ペルー生食用ブドウ生産者協会(Provid)のマヌエル・イザガ会長は、ペルーでは2万3,320ヘクタールの生食用ブドウの園地が輸出用として認定されていると述べた。

同会長は、イカ県は輸出用に認定された生食用ブドウの栽培面積が1万1,577ヘクタールと最も多い地域であり、全体の49.64%が集中していると指摘した。

次いで、ピウラ県が7,955ヘクタール(34.11%)、ランバイエケ県が1,590ヘクタール(6.8%)、ラリベルタ県が1,055ヘクタール(4.5%)、アレキパ県が877ヘクタール、アンカシュ県が106ヘクタールで、その他の県が合計119ヘクタールとなっている。

同会長は、ペルーは50品種以上の生食用ブドウを輸出しており、国際市場で最も需要が高いのは、スイートグローブ、オータムクリスプ、アリソン、スイートセレブレーション、シージーン2(商標名ティンプソン)、レッドグローブ、スイートグローブ、シュガークリスプ及びアイボリーであると付言した。